



JR「加太」駅と鉄道遺産群巡り 亀山市 加太界限

亀山市と伊賀市の境にある加太峠は、古来、交通の要衝でした。壬申の乱の際には大海人皇子が、本能寺の変の折には、本年のNHK大河ドラマの主人公・徳川家康が駆け抜けたといわれます。

英雄たちが越えた加太峠を鉄道が開通したのは明治23(1890)年のこと。同21(1888)年3月に、四日市市に「関西鉄道会社」(現「西日本旅客鉄道株式会社」)が設立されると、8月から敷設工事が始まり、2年後の12月に四日市・草津(滋賀県)間が開通しました。区内の加太地域では、急峻な地形に対応するために隧道(トンネル)や橋梁などが数多く造られ、今なお現役で乗客たちの安全を守り続けているのです。

今回は「加太鉄道遺産研究会」協力のもと、鉄道遺産群を巡ります。取材・文：中村真由美
【お願い】散策する際には、線路内に入らない、無断で私有地に入らないようご注意ください。



ご案内いただいたのは「加太鉄道遺産研究会」会長の坂 政明さん。鉄道遺産群を核とした魅力ある地域づくりのために、日々奔走していらっしゃいます。



木造駅舎が交流拠点に リニューアル

今回の散策は、JR「加太」駅から始まり、地域内の鉄道遺産群を巡って、再び同駅に戻るコースです。同駅の駅舎は今では貴重な木造で、昨年4月に、地域のにぎわい交流拠点にリニューアルされました。駅舎内の「加太地区まちづくり協議会」が運営管理する「加太サロン」(月・祝日定休)を訪ねると、迫力ある蒸気機関車の写真パネルが目にとまりました。これらは、昭和40年代のSLプレー



JR「加太」駅舎外観



「加太サロン」



市場川橋梁



猪元橋

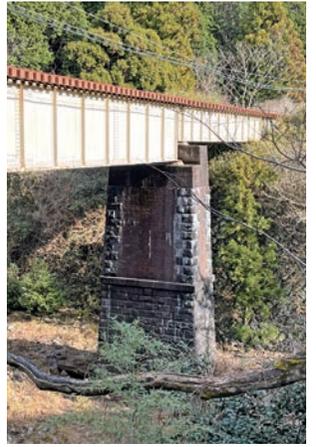
ムの際に鉄道ファンが撮影したものの急勾配に挑む蒸気機関車の雄姿を見ようと、多くの人々が訪れたのです。また、「加太鉄道遺産研究会」会員が撮影した各鉄道遺産の写真も展示され、散策前に予習できました。

美しいレンガ造りの橋梁と橋脚

「加太サロン」で「加太地区まちづくり協議会」の方の歓待を受けた後、最初に案内されたのは市場川橋梁です。橋梁とは河川・湖沼・運河・溪谷などの上に架設する構造物のことで、同橋梁は牛谷川

に架けられています。開口部分は、レンガの小口面の段と長手面の段を交互に積み上げた「イギリス積み」。加えて、レンガを斜めに置いた段が帯のように続いています。これは「雁木」と呼ばれる装飾です。なお、各鉄道遺産の近くには「加太鉄道遺産研究会」が設置した説明板が立てられています。訪問者をもてなす心が伝わります。

市場川橋梁からは、西へと進みます。住宅地の中を抜けると、やがて見えてくるのが猪元橋です。鉄道敷設のために付け替えられた道路橋のため、橋脚部分



屋淵川橋梁



板屋川橋梁

は鉄道建造物に準じた造り。全体はレンガ造りですが、白色の石材で仕上げているのが特徴です。

ひととき、猪元橋から加太川の景観を楽しんだ後は、同川に架かる橋梁2か所、屋淵川橋梁と板屋川橋梁を見学します。先に姿を現すのが屋淵川橋梁です。地域最長の橋梁で、59・7メートルを誇り

ます。橋桁は正時代に鉄材に造り変えられていますが、橋脚部分は敷設当時の姿を残しています。続いて数分程度歩いて板屋川橋梁へ。こちらは河原に下りていくことができ、下から見上げると、迫力がありました。

職人の心意気が伝わる架道橋

異なる視点から橋脚を見学した後、国道25号「板屋」交差点手前の細い道(林道板屋線)を右折します。少し歩くと見えてくるのが第165号架道橋です。架道橋とは、立体交差で道路や鉄道線路を越えている橋のこと。同橋の上部には、市場川橋梁で見た装飾「雁木」が施され、その下が「フランス積み」になっています。「フランス積み」とは、各段ともに小口面と長手面を交互に並べる積み方です。また、アーチ中央には色の濃いレンガを楔状に配置するなど、凝った造りになっています。じっくりと観察していると、通過する列車を間近に見ることができました。鉄道遺産と列車を同時に



第165号架道橋とJR関西本線の列車

見られるのも、今回の散策の醍醐味です。

明治時代の職人たちの心意気を感じながら、もう1か所の架道橋へ。大和街道架道橋です。



大和街道架道橋

こちらも上部には「雁木」が施されていますが、アーチ部分が石積みになっているなど、第165号架道橋とは異なる造りとなっています。

それぞれに趣向が凝らされた2か所の架道橋を見学した後は、大崖川橋梁に向かいます。坑内のアーチ部分はレンガ造りですが、それ以外は石造りとなっているのが、ほかの橋梁と大きく異なります。各橋梁の違いを見比べるのも楽しみ方の一つといえるでしょう。また、上部には大規模な盛土があり、地域の人々に、高堤防と呼ばれています。昭

大和街道の趣残す峠道

和40年代には、この辺りが蒸気機関車撮影の聖地となっていたのです。

今回の散策は、大崖川橋梁からJR「加太」駅へと戻る行程ですが、途中で大和街道の梶ヶ坂峠を通ります。大和街道とは、関宿の西の追分で東海道と分岐し、加太峠を越えて伊賀・奈良へと通じる道筋のこと。かつては加太越奈良道などと称されました。現在では大部分が国道25号となり、当時の趣を残す箇所は少なくなりましたが、唯一地道が残っているのが梶ヶ坂峠です。



梶ヶ坂峠

園内には遊歩道も整備され、森林浴を兼ねた散策が可能です。「八橋」と名付けられた木製の橋の上を歩いていると、並行して続く峠道に気付きました。この道が梶ヶ坂峠だと教わります。

「八橋」に別れを告げて、往時の面影を残す梶ヶ坂峠を越えると、名峰・錫杖ヶ岳を一望する加太梶ヶ坂の家並みが現れました。ここからJR「加太」駅までは徒歩約15分の距離です。明治時代の最新技術を駆使して築かれた鉄道遺産群を巡る散策は、これで終了です。

問「加太鉄道遺産研究会」事務局

(亀山市林業総合センター内)

TEL 0595-98-0008



大崖川橋梁



「亀山森林公園やまびこ」内の「八橋」

大崖川橋梁を後にして梶ヶ坂峠に向かう道は、静かな住宅地の中を続きます。しばらくして「亀山森林公園やまびこ」に到着。ここは、市有林の自然をそのまま活かした公園です。